

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年8月3日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.35】

## 安全 安心の職場づくりへ JRからの革マル排除が不可欠だ！

「綾瀬アジト解析資料」の「反党活動を行った『トラジャ』メンバー」とは、間違いなく「松崎明秘録」にある動労第4代青年部長の上野孝氏のことだ(No.25、26)。同氏は1994年に革マル派に拉致され、査問のため2年半も監禁されて、最終的にオーストラリアに逃亡し死亡したそうだ。松崎氏の著書で「綾瀬アジト解析資料」の記述の真実性が証明されたことになる。坂入氏の場合も、JR総連の革マル派メンバーが暴力的査問の事実を知っていたからこそ、救出に必死だったと考えれば辻褄が合う。両氏とも革マルの大物党員だからこそ拉致、監禁されたのであり、彼らが革マル派と無縁ならこのような事件など起こり得ないはず。これらの事件は、JR総連の中核への革マル派の浸透を明確に語っている。

前号で、革マル派の暴力的な集団による糾弾は、浦和電車区事件や三鷹電車区事件と酷似していると指摘した。読者の皆様には、JR連合組合員を通じ、事件の真実を描いたマンガ「奪われたハンドル」やDVD「JR三鷹電車区事件の真実」をぜひご覧いただきたい。JR総連・東労組のいじめを受けた組合員は他にも多数いる。革マル派がJR総連・東労組に深く浸透し、その行動様式が職場で反映されていることは明白だ。安全で安心して働ける職場を築くために、JRから革マル派を徹底して排除しなければならない！

### 「T氏糾弾事件」は第二の「浦和電車区事件」に発展するか？！

ところで、2002年以降「東労組を良くする会」の動きを巡り、東労組内で激しい内部対立が起こったことは記憶に新しい。その象徴ともいえる、2003年5月に発生した「T氏糾弾事件」について紹介しておきたい。この事件は、2003年5月10～13日に埼玉県城ヶ高原キャンプ場で行われた東労組運輸車両部会の常任委員会で、長野地本代表で出席したTさんが、東労組本部大会の代議員選挙に立候補したことが問題視され、4日間にわたる会議の中で繰り返し激しく集団的追及を受けて、強度のストレスにより「抑鬱神経症」になり70日間も入院する事態になったというもの。当時の信濃毎日新聞に掲載されたほか、長野地本の声明、見解、要請書などに事件の経過が記載されている。現場での脅迫の内容は、宗形明著「続 もうひとつの『未完の国鉄改革』」(p.137)に以下の通り紹介されている。

T氏 迷惑をかけて申し訳なかった」本部派役員 組織を混乱させたんだろう 組織を混乱させることが目的だったんだろう 寝れると思うなよ。しゃべるまで寝かせねーからな」 T氏 明日は仕事なんだけど」本部派役員 4日間黙っていれば帰れると思うなよ」なめてんのかー (水の入ったヤカンを持ってきて頭からかけようとした) 帰れると思うなよ。おれが明日の朝、風邪で休むと職場に電話をかければいいんだからな」十分時間をやるからしゃべってくれ。後2分だ。もう待てねーよ。早くしゃべれ。首締めたるか。しゃべらねーと殺すぞ」人に言われれば何でもやるのか。死ぬと言われれば死ぬのか」組織破壊者として認めたら12地本に謝罪行脚に行け」

T氏は2006年9月に脅迫を行った役員21名を告訴したが、東労組機関紙「緑の風」(475号)や「JR総連通信」(921号)によると、2009年1月、18名に長野県警から呼び出しがあったようだ。東労組は加害者側21名を「F21」と称し、新たな弾圧と闘うとしている。「T氏糾弾事件」は第二の「浦和電車区事件」に発展するか、非常に興味深いところだ。